

ゴール目指して駆ける



スタートを切るランナーたち

「2014八幡市民マラソン大会」が12月7日、八幡市民スポーツ公園を発着点に開催されました。

同大会は、市体育協会などで構成される八幡市民マラソン大会実行委員会が主催。ハーフマラソンのほか、10km、3km、2kmの男女年齢別に15部門が設けられ、市内外から集まった1675人のランナーが木津川沿いなどのコースを駆け抜けました。

親子ペア部門には、3歳〜小学2年生までの子どもと保護者のペア130組が参加しました。同公園から公道コースに飛び出して2kmの道のりを駆け抜け、最後は親子で手をつないでゴール。完走できてほっとしたのか泣いてしまう子どももいて、一緒に走ったお父さんやお母さんは

「よく頑張ったね」と、笑顔で子どもの頑張りをほめていました。

家族で親子ペア部門に参加した山下圭司さん(35)夫妻は、それぞれのペアで優勝と7位入賞を飾り、家族で一つの目標に向かって頑張れて、楽しかったです」と、にこやかに話していました。



親子ペア部門で優勝と7位入賞の山下さん家族

1年寝かせておいしいおみそに

12月16日、南山小学校の4年生がみそ作りを体験しました。

同校では、食育の一環として児童たちに自分で食べるものを自分で作ってもらおうと、農業体験や家庭科の授業を行っています。

講師は料理サークルに所属していた橘まき子さんが務め、はじめにみそなどの味や効能を紹介。みそは、1、5、10年寝かしたものが用意され、「10年みそは、食べると体が温まって、かぜをひきにくくなります」と説明。10年みそを試食し

た児童たちは「チョコレートのおいがして、甘い」と、じっくり寝かせたみその味を堪能しました。

その後、児童たちはみそ作りに挑戦。めん棒で煮た大豆をつぶし、混ぜ合わせた米麴と塩を加えて、さらに混ぜます。そして空気を抜きながら丸めて桶に詰め、隙間ができないように押し込んで仕込みが完成。

仕込んだみそは、約1年間寝かせ、来年の家庭科の授業や給食で使われる予定で、児童たちはみそが完成するのを心待ちにしています。



みそを丸める児童たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

折り紙ヒコーキ作りに挑戦

日本航空株式会社の社員による「JAL折り紙ヒコーキ教室」が12月12日、くすのき小学校で行われ、3年生87人が折り紙ヒコーキ作りに挑戦しました。

同社は、航空の世界や職業に興味を持ってもらうと、折り紙ヒコーキの折り方や操縦席から見た地球環境の変化などについての出前講座を行っています。この講座を利用して授業が実施されました。

児童たちが挑戦する折り紙ヒコーキは、イカの形をした「イカヒコーキ」と滞空時間が長い「へそヒコーキ」。同社員から「翼は正面から見るとYの形にすると、飛ばしたときに空気抵抗でまっすぐになり、よく飛びます」などのアドバイスをもらいながら、手順に沿って丁寧に折り、自分だけの折り紙ヒコーキを完成させていました。

最後は、距離ごとにポイントを決め、クラス対抗の折り紙ヒコーキ競技会。児童たちはクラスの声援を受けながら、折り紙ヒコーキをより遠くへ飛ばそうと頑張っていました。



消火訓練を行う参加者たち

地域の力で災害に備える

12月13日、四区の合同防災訓練が橋本小学校で行われ、区内の11町内会から200人を超える住民が参加しました。

同訓練は、東南海・南海地震の発生を想定して四区が主催。消防署員や消防団員、女性防火推進隊員の指導を受けながら行われました。

訓練では、事前に災害時要援護者の安否確認も行われ、避難支援者が電話で安否を確認し、その結果を町内会長に報告していました。

当日は、町内会ごとに避難経路をたどっ

て橋本小学校に集合。その後、起震車での地震体験やAED、消火器の取り扱い訓練などが実施されました。

地震体験では、参加者たちは最大で震度7の揺れを体感。イスに座った参加者たちは、テーブルをつかんでいないと振り落とされそうになる揺れの大きさに、驚きの表情を浮かべていました。

また、過去の被災の歴史や対応を記録したパネル展示やビデオ上映も行われ、参加者たちは改めて災害時の対応の重要性を感じていました。